

6

交流拡大による活力創出プロジェクト

概要

イベントの開催や交流拠点の整備等を通じて交流を拡大し、県民の活力を創出・発信することにより、山口ならではの豊かさの創出につなげる。

また、人やモノの流れの拡大を支えるため、空港、新幹線停車駅等を起点とする交通ネットワークの機能強化や、高速道路・国道・県道等の道路網の整備・充実を推進するとともに、海外自治体との交流やグローバル化に対応した多文化共生による地域づくりを進める

重点策

- 21 山口きらら博記念公園を拠点とした県民の活力の創出・発信
- 22 交流を活発化する交通ネットワークの機能強化
- 23 広域的な交通インフラの整備
- 24 国際交流の推進

(1) 成果指標の状況

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標
	★★★★★(目標を達成)		
	★★★★(計画を上回る)	2	山口きらら博記念公園年間利用者数 等
	★★★(ほぼ計画どおり)	1	山口宇部空港の国内定期便の年間利用者数 等
	★★(計画を下回る)	1	国道・県道の整備完了延長
	★(計画から大幅に遅れ)		

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
県民実感度調査 (%)	新幹線や航空便の利便性や観光地等へのアクセスなど、交通ネットワークの充実が図られていると思いますか。	29.9	32.0	36.9
	山口きらら博記念公園における、イベントなどを通じた交流拡大の取組が進んでいると思いますか。	41.6	37.7	18.9

(3) 主な取組と成果

◆ 山口きらら博記念公園を拠点とした県民の活力の創出・発信

- 山口きらら博記念公園の交流拠点化に向けて「山口きらら博記念公園みらいビジョン」(R6.3 月策定)に基づく施設整備等を実施中。

- 山口きらら博記念公園を県内に元気と活力を創出する拠点としていくため、大規模イベント等を実施。

山口きらら博記念公園年間利用者数 16.0 万人 (R3 年度) → 87.6 万人 (R7 年度)

◆ 交流を活発化する交通ネットワークの機能強化

- 山口宇部空港は、機材小型化による座席数減少の影響もあり、年間利用者数は 85.6 万人と減少したものの、利用率は約 80% まで上昇。

- 岩国錦帯橋空港は、2 年連続で過去最高を記録。中でも、沖縄便が牽引し、3 年連続で過去最高を記録。

山口宇部空港の年間利用者数 87.1 万人 (R6 年度) → 85.6 万人 (R7 年度)

岩国錦帯橋空港の年間利用者数 52.3 万人 (R6 年度) → 55.1 万人 (R7 年度)

- 本県を代表する観光地の二次交通手段の確立に向け、広域観光周遊バス「ふくの旅、山口号」の運行自走化を図るための支援を実施。

◆ 広域的な交通インフラ（産業や生活の基盤）の整備

- 交流を支える道路網等の整備を図るため、**幹線道路等の整備を推進。**

国道・県道の整備完了延長：33km（R4～R7 年度） → 目標：50km（R4～R8 年度）

◆ 国際交流の推進

- 姉妹・友好提携関係や日韓海峡沿岸県市道交流知事会議等の枠組みを通じて、海外自治体と共通課題に関する意見交換等を行い、相互発展・交流拡大を推進。
また、在外県人会の若者を対象とした県内周遊バスツアーを開催し、交流を推進。
- 「山口県多文化共生推進協議会」において、市町や県国際交流協会と連携体制を構築したうえで、オンライン日本語教室や「やまぐち外国人総合相談センター」の運営、「やまぐち国際交流フェスタ」の開催など、多文化共生による地域づくりに向けた取組を推進。

(4) 総評

総
評

山口きらら博記念公園や県内 2 空港の利用者は順調に推移しているが、山口ならではの豊かさのさらなる創出につなげるため、山口きらら博記念公園の整備や交通ネットワークの機能強化、国際交流の推進などによる一層の交流拡大が求められる。

(5) 課題と今後の展開方向

課
題
と
今
後
の
展
開
方
向

◆ 山口きらら博記念公園を拠点とした県民の活力の創出・発信

- 「山口きらら博記念公園みらいビジョン」に基づき、交流・集客拠点として施設を整備するとともに民間活力導入の取組を積極的に進めるほか、県民活動やスポーツ・文化をはじめとする様々な分野のイベントを開催していく必要がある。

◆ 交流を活発化する交通ネットワークの機能強化

- 県内 2 空港の国内便の利用者数は岩国錦帯橋空港においては沖縄便が牽引し 2 年連続過去最高を達成したが、一方で、山口宇部空港については、過去最高（100 万人）を達成した平成 30 年度には及んでおらず、引き続き、航空会社や関係団体等と連携した継続的な利用促進 P R 等が必要である。
- 旺盛なインバウンド需要を直接本県に取り込むため、山口宇部空港国際便のさらなる運航を目指し、エアポートセールスなど国際線誘致の取組を進める必要がある。

◆ 広域的な交通インフラ（産業や生活の基盤）の整備

- 観光旅行者の利便性、快適性、回遊性等を向上させるための観光ルートの形成や、観光地への交通アクセスを強化する必要がある。

◆ 国際交流の推進

- 国際交流の活発化に向けて、海外自治体との友好協定等に基づく取組を進めていくほか、外国人との共生社会の実現に向けた国の取組も踏まえ、本県における多文化共生による地域づくりについて、市町や関係機関等と連携しながら着実に進めていく必要がある。

(参考) 令和 8 年度の主な新規・拡充取組

新 青少年等国際交流促進事業

次代の国際交流を担う人材の育成と、多様な分野での交流拡大を図るため、県内の国際活動団体が実施する本県と海外の青少年等による交流事業を支援